

1. 「JK ビジネス」：発表者 藤本

- ・保健師で困難を抱える女の子に関わる機会はいつ？

→貧困などの両親に出会うところから保健師に関わることができるのでは。早い段階で介入し、将来の被害者を減らす。

- ・親がどこまで介入できるのか

→簡単に見つけられる問題ではなく、貧困でない家庭でも現状としては JK ビジネスに関わっている子もいるため、課題は多い。

- ・ネットが悪いのか

→ネットのすべてが悪いわけではなく、使い方の問題や、もっと別の深い問題があるはず

- ・JK ビジネスではやはり女の子の若さに需要がある。若さがなくなったときにはどうなるのか。今まで背負ってきた傷はどうなるのか

- ・解決はどこにアプローチすることにより叶うのか

→そこは本当に難しい点である。行政の活動ではどうしても成果を求められるため、なかなかうまくいかない。行政の仕事は税金によるので。行政の人も様々な葛藤の中にあるのではないかと。そう願いたい。

先生：貧困、売春、暴力団、ジェンダー等様々な問題に縛られて声を上げられない女の子がたくさんいる現状がある。根本的に教育的なアプローチが重要であると考えている。保健の授業や人権の授業をしっかりと行わなければならない。海外では売春を合法化することにより、裏組織による活動を防ぎ、労働者として法的に守られるようになってきている。日本では性の問題はタブー化し、社会で語られない。

2. 「健康情報に惑わされないためには」：発表者 遠藤

- ・Medline plus のやつと厚生労働省の HP システムを連携させて、健康問題に関する Q&A で寄せられた案件についてエビデンスの高いものが出てくるようにするのはどうか

- ・検索キーワードの検索順位はどのように決められている？

→基本、公になっていないのではないかと。SEO 対策などがあるけれども。SEO 対策しているものは検索順位が上がる。

- ・なるべく早く楽に答えを出そうとしてしまいがちなので、しっかりと吟味する必要がある。

- ・分かりやすく正確な情報をテレビは提供されなければならない

- ・日本人はテレビをとっても信用しているから、それもまた問題。

先生：医師監修といっても、専門分野などがあるから、確実でないことも多い。NHKなどの番組ではわかりやすさを重視するため、時に誤解を生む表現をしてしまう。また、専門家からの助言があったとしてもそれを最終判断するのは放送する側なので、思い通りにいかないことも多い。日本人のリテラシーのなさ。

3. 「訪日中国語人観光客から考えた情報ヘルスリテラシーとヘルスリテラシー」：発表者 張

・中国は戸籍制度だから、戸籍がない人は医療を受けにくい。また、保険等に加入することができないので、治療を受けてもお金がかかり、そもそも受診をあきらめる人も中にはいる。日本の医療保険制度とは異なる。

・1970年代、文化革命があった際にはだしの医者というものがあり、村などに教育をしに行く人がいた。

先生：中国はヘルスリテラシーの全国調査をやっている。

4. 「インフルエンザワクチンは打つべきか」

・インフルエンザ一つとっても意思決定をすることが難しい。根拠のある情報が身近にあればいいのと思う。

・ほかの予防接種ワクチンと一色淡にされてしまうと困る。

先生：新聞上の効果を確認できずという文言は、効果がないとは意味が異なる。統計的に有意差が出なただけであるとも考えられる。グラフに関してもしっかりと表している意味を読み込まなければならない。海外の場合では熱があったときに外出しないことを基本としているため、日本のように熱が出たら受診するという方法をとることが、インフルエンザをばらまく要因の一つであると考えられる。結局ワクチンに関する知識が不足しているため、選択があいまいになっているのではないか。

5. 「公共図書館と健康・医療情報サービス」：発表者 山田

・健康図書館とてもいい！本だけではなく健康のみえる化ができるのがいい

・東京にもこの仕組みが入ってきてほしい。

・台湾へ交換留学に行った際、アクティビティや体験を通して健康について学ぶことの出来る施設があったのでそういう仕組みがあるといいと思う。

・ルカナビは相談にお金がかかるので、お金がかからない相談所があるのはとてもいい。

・一般の図書館には医療参考本が少ないところや、あるけれども探せてない状況がある。もっと図書館事態の情報が広まればいいのに。

先生：大和市の例では、市長が医療従事者であったため、健康に関することに力を入れている背景がある。ただ、健康情報を伝えられる司書がいるとは限らないため、医療情報に特化した司書がいることが望ましい。そのため、健康や医療情報に関する司書の育成をすることも必要がある。その点がアメリカと大きく異なる点であるため、改善が必要なのではないか。

最近図書館ではなく情報センターと言われることもおおい。そのため、先ほども述べたが、そこに関わる司書の育成が欠かせない課題となっている。